

としてオープンしました。その後1972年の本土復帰までに村内では山田温泉(現ルネッサンスリゾートオキナワ)、万座ビーチ(現ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート)など、続々とリゾートホテルがオープンしました。鉄道がなく、自動車も普及していなかったこの頃の沖縄県ではバスが県民の足になっており、バス会社は路線バスだけでなく観光バスも運行させるようになり、1950年代後半から、月の浜海水浴場やいんぶビーチへ向かう観光バスの新聞広告がひんばんに掲載されました。



1965年7月29日 いんぶビーチ
(沖縄県公文書館所蔵)



(参考写真)1961年7月
(沖縄県公文書館所蔵)

自家用車

沖縄県の報告によると、県内の自動車の普及率は年々増え、1972年の19万8000台から2020年には110万9000台に達しました。レンタカーの台数も2000年と2020年を比べるとおよそ3.7倍の2万3585台に増えています。その結果、観光シーズンには県内の至る所で渋滞が発生しました。恩納村も例外ではなく、村内の国道58号の渋滞を緩和するために2009年に恩納南バイパスが、2011年には恩納バイパスが開通しました。

また、観光客にはレンタカー以外でも観光を楽しんでもらい、県民には路線バスとして利用してもらうため、2018年5月から那覇と恩納村、美ら海水族館をつなぐシャトルバス「沖縄エアポートシャトルバス」が運行を開始しました。(仲村)



※ 沖縄における乗合自動車業の始まりと言われる運送会社。1917年9月設立。

【参考文献】

- ・「琉球新報」琉球新報社
 - ・「恩納村誌」仲松弥秀(1980年)
 - ・「沖縄大百科事典」沖縄タイムス社(1983年)
 - ・「パンフレット」沖縄県の道路2022「沖縄県土木建築部
- 沖縄県ホームページ(<https://www.pref.okinawa.lg.jp/>)